



図3. サメハダとチュウガタの生息環境（水牛池）．坂本俊士氏撮影。



図4. サメハダとチュウガタの生息環境（水路）．坂本俊士氏撮影。

とコマルケシが同所的に採集されており (Biström & Watanabe, 2017), これら 3 種が好む生息環境には類似する点があるのかもしれない。

坂本俊士氏の聞き取り情報によると, 小浜島では 1950 年までは稲作が盛んであり, 戦後, 食料を求めて多くの人が小浜島へ移住したため, 人口は約 1,200 名にまで増加した。しかし, 1970 年から 2000 年にかけて沖縄本島では観光業が盛んになり, 小浜島からは人口が流出した。併せて, サトウキビ畑や放牧の増加により水田が激減したことから, 2010 年以降には家庭消費用規模で細々と行われる程度にまで稲作は減少した。水田が減少することはサメハダやチュウガタの生息地の一部が消滅するほか, ため池などの管理放棄, 湿地環境の乾燥化にも繋がるため, 生息環境の悪化が懸念される。

## 引用文献

- Biström, O. & K. Watanabe, 2017. A new species of the genus *Hydrovatus* (Coleoptera, Dytiscidae) from Iriomote Island, Southwestern Japan, with a key to the Japanese Species. *Elytra*, Tokyo, New Series, 7(1): 5–13.
- 稻畠憲昭, 2016. サメハダマルケシゲンゴロウの日本からの初記録. さやばねニューシリーズ, (21): 46–47.
- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 2015. レッドデータブック 2014 —日本の絶滅のおそれのある野生

生物—5 昆虫類. 509 pp. 株式会社ぎょうせい.  
松井英司, 1990. 琉球列島で採集した水生甲虫類 (1). 北九州の昆蟲, 37(2): 69–78.

森 正人・北山 昭, 2002. 改訂版 図説 日本のゲンゴロウ. 231 pp. 文一総合出版.

渡部晃平, 2016. 石川県におけるマルケシゲンゴロウ属の分布. さやばねニューシリーズ, (24): 53–56.

渡部晃平・富沢 章・稻畠憲昭, 2016. 本州におけるサメハダマルケシゲンゴロウの初記録. さやばねニューシリーズ, (23): 15–16.

(吉村優杏 482-0003 岩倉市曾野町江毛 1  
岩倉南部中学校)

(渡部晃平 920-2113 白山市八幡町戌 3 番地  
石川県ふれあい昆虫館)

## 【短報】キガシラタマキスイを北海道で採集

キガシラタマキスイ *Cybocephalus (Cybocephalus) politissimus* Reitter, 1898 は, ヨーロッパ, ロシア (シベリア, 極東地域), 中国 (広東省), 台湾, 日本 (本州, 四国, 九州, 沖縄) から記録されている (Hisamatsu, 2013; 久松, 2015). 下記のとおり, 北海道にて本種を確認したので記録する。

47exs., 小清水町浜小清水とうふつ湖畔, 2. VII. 2017, 吉富博之採集, 愛媛大学ミュージアム保管.

道路脇に植栽されているイチイ *Taxus cuspidata* にイチイカタカイガラムシ *Parthenolecanium pomeranicum* Kawecki と考えられるカイガラムシが多く発生しており, その枝を叩き網して採集した。採集個体以外にも多数の個体を目撲していることからも, おそらくこのカイガラムシを餌としていると考えられる。他にもヒメアカボシテントウ *Chilocorus kuwanae* Silvestri やチビマルハナノミ属の数種 *Contacyphon* spp. が得られ, それらの種もこのカイガラムシを利用している可能性がある。

末筆ながら, カイガラムシについて情報をくださった田中宏卓氏と, 植物の同定をしてくださった河合庸展氏 (株式会社環境指標生物札幌支社) にお礼申し上げる。

## 引用文献

- Hisamatsu, S.-T., 2013. A review of the Japanese Cybocephalidae (Coleoptera: Cucujoidae). *Zootaxa*, 3616(3): 253–267.
- 久松定智, 2015. 日本産タマキスイ科 Cybocephalidae(コウチュウ目). さやばねニューシリーズ, (17): 32–36.

(吉富博之 愛媛大学ミュージアム)  
(久松定智 790-0003 松山市三番町 8 丁目 234  
愛媛県立衛生環境研究所生物多様性センター)